

TALK & TALK

資材部会長・福西紀雄氏に聞く

他部会との交流を深め

業界、企業発展に役立つ情報提供を

聞き手・社)日本自動車車体工業会

事務局長・武井 弘

本号では、資材部会長・福西紀雄氏(天龍工業(株)代表取締役社長)にお話を伺いました。

福西氏は昭和38年3月愛知学院大学卒業後、39年9月天龍工業(株)に入社。

その後昭和46年8月取締役に就任、48年9月常務取締役に就任、昭和52年代表取締役に就任されました。

工業会関係では、昭和54年5月理事就任、その後約1年部会長を勤め、平成7年5月より再び部会長就任現在に至っております。

事務局長・本日はご多忙のところ有り難うございます。早速ですが本題に入らせていただきます。

資材部会は車体工業会の中でも他の部会と違って会員構成がいろいろ幅広い業種の企業で構成されておりますので、部会の運営に難しい面もあるのではないかと思います。まずその点に

ついてお話をください。

福西・車体工業会にはいろいろな部会があるわけですが、その中でも賛助会員である資材部会の運営にはおっしゃる通り立场上大変難しいものがあります。

会員構成でも非常に大きな企業から小さい企業まであり、業種別でもあらゆる業種に亘っており、また本部会員とのパイプも細く纏まりにくいという点で難しく、今後の課題の一つです。

また、賛助会員として会合に出席されている方は、賛助会員として登録されている担当者が主体となって車工会活動をやるのか、あるいは企業が主体となって活動するののかという点について、不鮮明でもあり、またそれぞれギャップを感じておられるのではないかと思います。そういうことで、この資材部会という組織はアピールしにくいし、意義を感じにくいものにして

いるのではないかと思います。この点についても部会の今後の課題の一つとして我々役員は頭を悩ませております。各種の情報提供にしても、それらがなかなか会員各社に浸透せず、どうすればいいのか模索しているというのが現状です。

現在、車体工業会には8部会ありますが、そういう中でいろいろな情報が流され、各部会の会員間で、それがどう繋り合いお役にたっているのか、また、本部の活動が資材部会の賛助会員各位にどう捉えられているのか、資材部会員の企業が他の本部各部会の会員企業とどんな取引関係にあるのか、どういった点で繋っているのかという点も掴みにくいため、我々としてもどういふものがご要望に答えられるものなのか判断しにくく困っています。

同時に情報についても担当者に提供する情報がいいのか、会社が必要とするものがいいのかも決めかねています。アンケートをとってみたらとも考えています。

いわゆる業種の違いが活動のネックとなっているということでしょうか。

例えば資材部会を今後さらに細分化するといえますか、下部組織として業種別に分けるとかいう方法などはいかがですか。

た何が必要としているのかということなど、登録されている担当者、その方々の企業が車体工業会に対して要求するものは何なのかということが問題なのです。

資材部会の会員であるということが他の部会との交流を通じてプラスアルファとして商売上どのようなメリットがあるのかという面が見えればということですね。

福西・やはり何かメリットがないと車体工業会に入っている意味もないし、資材部会に入っている意味もないということです。

ですからそういう面での意見や要望をどしどし出していただければと思っておりますし、また、そういう場を作っていきたくとも考えています。

資材部の会員も100社を越えていますので、それぞれご意見、ご要望も沢山あるのではないのでしょうか。

またバス部会、トラック部会、それらの部会だけでなく他の部会とも、もっと交流を深めていければと考えます。

資材部会は、他の部会と比べてみましても、懇親会や施設の見学会など積極的にやっていると聞いています。が、今後の予定はいかがでしょうか。

福西・今後はそういったものに限らず資材部会の催しについて、他の部会の方々にもご案内し、参加を呼び掛けていきたいと考えます。

またそうした機会を通じ、本部会員企業の方々に賛助会員である資材部会員企業を知っていただき、取り引き相

TALK & TALK



福西 資材部会長

手として認識を深めていただきたいとも思います。

先日、初めて本部会員のバス部会の方々に参加して下さったおかげで大変盛り上がりました。

事務局としても積極的にそのような機会を作っていきたいと思えます。

福西・話は変わりますが、本部では規制の問題をはじめいろいろと規定に従い関係官庁と積極的に活動を展開していますが、そのような活動が賛助会員である資材部会の各企業にどのぐらいのインパクトを与えたと判断されていますか。

一つにはこの車体ニュースによる様々な活動状況の情報提供が役にたっていると思っておりますが、出来ればどのような内容のものが今後よりお役にたつのかという点など、ご意見、ご

要望いただければと思います。

福西・資材部会が模索してやっていくより事務局の方で仕掛けてやっていただいたほうが早いのではないのでしょうか。

事務局からいろいろな問題を投げかけていただきたいし、また、問題が起きた時にはすぐ接触していただきたいと思えます。

昨年でしたか、欧州視察団派遣を企画・展開しましたがあのような活動はいかがでしたか。

福西・円高なども含めてこういう時期にEUとの兼ね合いでいろいろなテーマがあり大変勉強になりました。

今迄で他の部会と共同研究された事例で何かお気付きの点はございますか。

福西・様々なPLの関係とか、難燃性、

バスの規格の関係などといった場合に展開したわけですが、やはり業界そして資材部会また各企業発展のために車体工業会として仕掛けるというような何か良い共同研究があればと常々感じております。もっと規制緩和をすすめていただける方向で業界発展のため先取りして、他の部会の方ともしっかりと交流できないものかと思えます。

各企業が車体工業会に期待していくという方向にいくことによってまだ未入会の企業の取り込みにも通じるし、現在の各部会の活性化にもなるのではないのでしょうか。

我々としてももっとと会合を開いて、いろいろな業種の方々に集まっていただけけるよう、限られた予算の中で最大限有効利用が出来ればと考えております。

総会等、集まって来られる企業体はだいたい一定していますので、出ていただけない企業が、これから出てきていただけるような仕掛け方を事務局と一緒にやっていく必要があるのではないかと思います。

車体工業会に入ることによって情報が一番早く入ってくるということが必要なことですが、この中には技術的なものもあり、それが各企業の経営活動にプラスになるものということでもあるわけですね。

福西・それと同時に、それらの情報が会員企業の中の必要とする各部署に流されていきやすくするために、資料の作り方も考えていく必要性があるのではないかと思えます。

そういったことを想定し、先般、自動車車体資材ハンドブックを製作し配

布しましたが、今後はより有効に会員各社で活用いただけるようフォローしていくつもりです。

また、この車体ニュースなんかも各企業にとつて有益な記事が掲載されているわけですから担当者が読んで、読み終わったら回覧し、回収して整理し、何時でも読み返せるようファイルしておくということも情報の有効活用になるということではないでしょうか。

では最後になりましたが部会長のご趣味あるいは健康法についてお話しただきたいと思えます。

福西・趣味といっても特にこれだというものはございませんが、仕事を通じてのものといえますか、私どもは昔から全国のお客様のところを回る習慣になっておりますので、全国各地、各所でおいしいものを食べたりまた、名所・旧跡はもちろん、地元の人以外あまり人に知られていない由緒ある場所や美しい場所に案内していただきますので、そういったことを楽しみにしています。

今という旅とかグルメということになるわけですが、私どもはそれらがこれほどのブームになる以前からやっておりますので、テレビや雑誌に紹介されるところはたいして知っており、そんな時にはまた懐かしい思いが蘇ってきますので楽しい思いをしています。

健康については、現在、減量のためなるべくウォーキングをと機会を捉えては実行しています。

——本日はお忙しいところ、有り難うございました。